

メタノール燃料船を含む次世代環境対応船3隻の新造船を発注 ～次世代燃料船の導入促進で、海運の環境負荷軽減を推進～

オリックス株式会社（本社：東京都港区、社長：井上 亮）は、このたび、連結子会社の三徳船舶株式会社（本社：大阪府大阪市、社長：多賀 純一、以下「三徳船舶」）を通じて、常石造船株式会社（本社：広島県福山市、以下「常石造船」）の最新型環境対応船であるメタノール燃料ばら積み貨物船「KAMSARMAX」2隻と、株式会社大島造船所（本社：長崎県西海市）のばら積み貨物船1隻を発注しましたのでお知らせします。今回、常石造船の「KAMSARMAX」は常石集団（舟山）造船有限公司（本社：中国浙江省舟山市）にて建造され、大島造船所のばら積み貨物船は香焼工場（長崎県長崎市）にて建造されます。

なお、オリックスグループとして、メタノール燃料船の発注は今回が初めてです。

このたび発注した「KAMSARMAX」は、メタノールを燃料とするばら積み貨物船で、重油も使用できる2元燃料船^{*1}です。本船は、メタノールの使用および船型開発などにより、常石造船の従来船と比較してCO₂排出量が約15%少なく、大気汚染物質である硫黄酸化物の排出を約95%削減できます。

現在、メタノールの製造には天然ガスなどの化石燃料が用いられていますが、将来的には、CO₂と再生可能エネルギー由来の水素から作られたグリーンメタノール^{*2}を使用することで、運航時のCO₂排出量は実質ゼロとみなすことが可能になります。



「KAMSARMAX」のイメージ図

（画像提供：常石造船）

2023年、国連の専門機関である国際海事機関（IMO）は国際海運からの温室効果ガス（GHG）排出削減目標を「2050年頃までにGHG排出量ゼロ」へと強化しました。同目標達成のために、2030年までに国際海運におけるゼロエミッション燃料等の使用割合を5～10%とする目標が新たに策定^{*3}されるなど、環境対応船への需要は高まっています。

今回発注した3隻は、すべて2025年以降の契約船に対しての規制である「EEDI^{*4}フェーズ3」（基準値比30%削減）を前倒しでクリアしており、環境負荷の低減が期待できます。

オリックスは、2024年2月に事業承継を目的として三徳船舶の発行済み株式をすべて取得^{*5}しました。事業承継後初めての船舶発注として、最新の環境対応船を導入します。

オリックスおよび三徳船舶は、第三者保有船のアセットマネジメントサービスの拡充を視野に、メタノール燃料船を含む環境対応船の運航管理ノウハウなどを獲得し、海運業界全体の脱炭素化に貢献してまいります。

※1 メタノールと重油の2種類を燃料として使用可能なエンジンを搭載している船

※2 [INNOVATION OUTLOOK RENEWABLE METHANOL](#) (出典: IRENA)

※3 [Revised GHG reduction strategy for global shipping adopted](#) (出典: IMO)

※4 EEDI (Energy Efficiency Design Index・エネルギー効率設計指標): 国際海事機関 (IMO) による新造船を対象とした CO2 の排出量削減に関する国際条約

※5 [2024年2月15日付ニュースリリース: 三徳船舶の事業承継に伴う株式譲渡契約を締結](#)

以 上

< 報道関係者からのお問い合わせ先 >

オリックス株式会社 グループ広報・渉外部 TEL: 03-3435-3167